

2025年 新春
ランチタイムセミナー

知るから始まるはじめての一步 性の多様性, SOGI の基礎知識

Part1.

1/8 Wed

SOGIE ってなあに？ 性の多様性の基礎知識

Up&Forward IUHW 国際医療福祉大学医学部 医学生団体

Part2.

1/16 Thu

トランスジェンダーと医療

池袋 真 パーソナルヘルスクリニック ジェンダー外来

Part3.

1/22 Wed

ひとりひとりが作る安心感 ー学びの場、働く場、ケアの場で実践するために

松本 多絵 日本医科大学小児科 教授 (教育担当)

Special

1/31 Fri

誰一人取り残さない：順天堂医院の取り組みから始まり大学に起きた変化

武田 裕子 順天堂大学大学院 医学研究科医学教育学 教授

SOGI と LGBTQ

よく使われる言葉に「LGBTQ」があります。これは性的マイノリティの中でも、認知度の高いレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字をとった言葉で、性的マイノリティの総称として用いられます。日本では人口の8~9%程度が該当するとされています。

一方で「SOGI」とは、どんな人かを表すのではなく、性の多様性そのものを表す概念として使う言葉です。どのような人を好きになるか「性的指向 (Sexual Orientation)」と、自己の性別についての認識「性自認 (Gender Identity)」の頭文字をとった言葉で、「どんな人も持つ属性」のことです。特定のマイノリティを表す言葉で枠組みを作るのではなく、多様性を表現するための概念として2011年頃から国際的に使われています。

セミナーでは、すべての人が持つ属性としての概念「SOGI」を前面にして教職員、学生のみならず学ぶことを目指しています。特定の人にも配慮が必要な課題として捉えるのではなく、すべての人の対等・平等、人権の尊重に根ざした課題として考えたいと思います。

各回 12:05-12:55

Webex ウェビナー

主催 日本医科大学

対象 日本医科大学・日本獣医生命科学大学
に所属する教職員と学生

申込 こちらから (締切：各回前日)



<https://one-health.jp/>

Part1.



UP&FORWARD
IUHW

SOGIE ってなあに？ 性の多様性の基礎知識

UP&Forward IUHW 国際医療福祉大学医学部 医学生団体

一人ひとりが尊重され、誰もが生きやすい社会を実現したいという想いから、2021年に国際医療福祉大学医学部の学生たちが立ち上げた団体。大学内外でインクルーシブ医療について情報発信を行い、学生だけでなく職員や医療従事者にも向けた講演やワークショップを通じて、多様性に対する理解を広げる活動を続けている。IG: @upandforwardiuhw

多様な性や性別が存在する今の社会で、「普通ってなんだろう？」って考えたことはありますか？この講演では、そんなシンプルだけど意外と深い問いから始めて、SOGIEやLGBTQ+の基本をわかりやすく解説します。また、LGBTQ+の方々が直面する現実をデータや実体験を交えながら共有し、「理解できない」と感じる理由やその壁をどう乗り越えるかを一緒に考えていきます。さらに、日常で役立つちょっとした工夫や、新たな視点のヒントも盛り込んで、誰もが生きやすい社会を目指すための一歩を後押しします。

トランスジェンダーと医療

池袋 真 パーソナルヘルスクリニック ジェンダー外来

2015年福岡大学医学部医学科卒業。日本産婦人科学会専門医、日本GI(性別不合)学会認定医。

専門は、トランスジェンダーのホルモン療法・ヘルスケア・セクシュアルヘルスケア。

東京・神奈川・大阪のクリニックでジェンダー外来を開設。

著書「LGBTQ+医療現場での実践 Q&A」「医療者のためのLGBTQ講座」

LGBTQ+のTの”トランスジェンダー”。みなさん、”トランスジェンダー”という言葉を知ったことはありますか？割り当てられた性別(法律上の性別)と異なる性自認(ジェンダーアイデンティティ)がある人をトランスジェンダーと言います。日本各地でジェンダー外来を開設後、約4年間で延べ約5000名のトランスジェンダーの方々の診療を行ってきました。今回は、日本のトランスジェンダーの医療の現状とともに、医療従事者に知ってほしいトランスジェンダー医療について、具体例を交えながらお話したいと思います。

Part2.



Shin IKEBUKURO

Part3.

ひとりひとりが作る安心感ー学びの場、働く場、ケアの場で実践するために 松本 多絵 日本医科大学小児科教授(教育担当)



Tae MATSUMOTO

1999年日本医科大学医学部卒業。2011年日本医科大学大学院卒業。2022年より日本医科大学多摩永山病院小児科部長、2024年より小児科教授(教育担当)。小児科専門医、アレルギー専門医、日本医師会健康スポーツ医、産業医。日本パラスポーツ協会パラスポーツ医。医療現場で無意識に排除されてしまう患者さんたち、働く人たちがいる仕組みを変えたいと考えている。GI(性別不合)認定医を目指して勉強中。

「LGBTQの人には会ったことがない、よくわからない」と感じていませんか？今回は、当事者・同僚・上司の視点を基にしたエピソードを通じて、学びやすく働きやすい場を作るのに大切なことを考えます。隣にいる同僚も、目の前の患者さんも、LGBTQとしての個性を持っているかもしれませんが、それを隠しているかもしれません。なぜ隠さなければならないのでしょうか？私たちが無意識に作っている環境が、安心できない場なのかもしれません。LGBTQというラベルではなく、ひとりひとりの個性を尊重し、誰もが安心できる環境作りが大切です。医療職として「誰かの役に立ちたい」という気持ちを実践に活かし、よりよい環境を作る一歩を踏み出しませんか？

誰一人取り残さない：順天堂医院の取り組みから始まり大学に起きた変化

武田 裕子 順天堂大学大学院 医学研究科医学教育学 教授

筑波大学医学専門学群卒業。米国にてプライマリ・ケア研修を行い米国内科専門医資格取得。帰国後、筑波大学・琉球大学・東京大学・三重大学で地域医療教育及び国際協力に従事。

ロンドン大学(2010-13)・ハーバード大学(2013-14) 研究員を経て2014年より現職。健康格差の社会的要因(SDH)教育に従事。誰ひとり取り残さない病院を目指す順天堂医院で「SOGI相談窓口」を担当。在住外国人の健康格差の改善に向けて「やさしい日本語」の普及を図っている。

順天堂医院では、2021年5月に「SOGIをめぐる患者・家族・職員のための配慮と対応検討ワーキンググループ」を立ち上げ、セクシュアリティによらず安心して受診できる環境づくりに取り組みはじめました。レインボーフラッグを目にした学生から、「自分はこの大学にいていいんだと感ずることができた」という声が寄せられ、学生の抱えるさまざまな困難が可視化されるに至りました。さらに、患者さんや学生だけでなく、教職員にとっても安全に働けるキャンパス・医療機関である必要が認識され、人事規約の改訂もなされました。現在、学校法人順天堂の各学部・附属病院に取り組みが広がっています。3年連続でPRIDE指標 GOLD 認定されました。

Special



Yuko TAKEDA